

海洋観測データ等を用いた データの価値化・サービスの実現と 観測へのフィードバック等について



株式会社オーシャンアイズ
発表者: 代表取締役 田中 裕介

1. オーシャンアイズの事業概要
2. 「データバリューチェーン」から見たOEの事業
3. データバリューチェーン構築にあたっての課題感
4. まとめ

「透明な海」をつくることで
人が主体的に活動できる
海にする



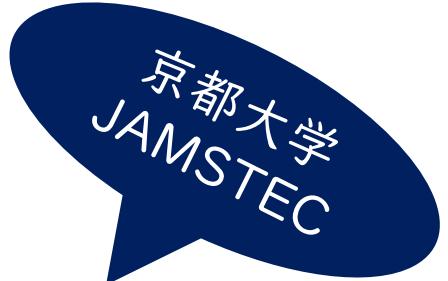
オーシャンアイズは

海洋データ解析技術で社会貢献を目指すディープテック企業です

コア技術

海洋シミュレーション

画像解析の海洋データへの応用



Board Members



取締役
蒲地 政文

海洋モデル, データ同化
元 気象研究所 研究総務官



取締役 CTO
飯山 将晃

パターン認識, AI
滋賀大学 データサイエンス学部 教授

監査役
石川 洋一

海洋モデル, データ同化, 気候変動適応
JAMSTEC 付加価値情報創生部門
地球情報基盤センター長



取締役
笠原 秀一

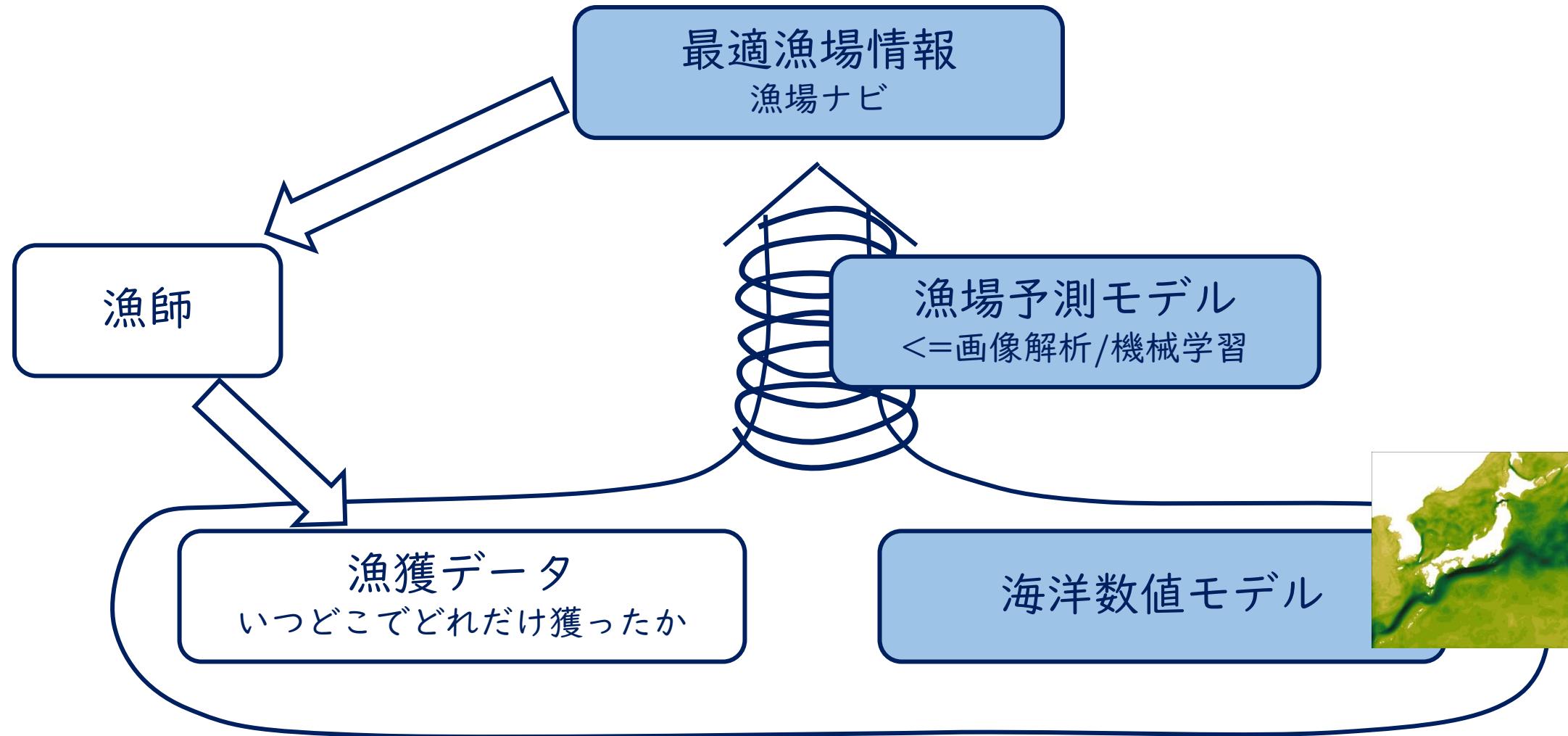
観光情報学, パターン認識
大阪成蹊大学 データサイエンス学部 教授

代表取締役
田中 裕介

海洋モデル, データ同化



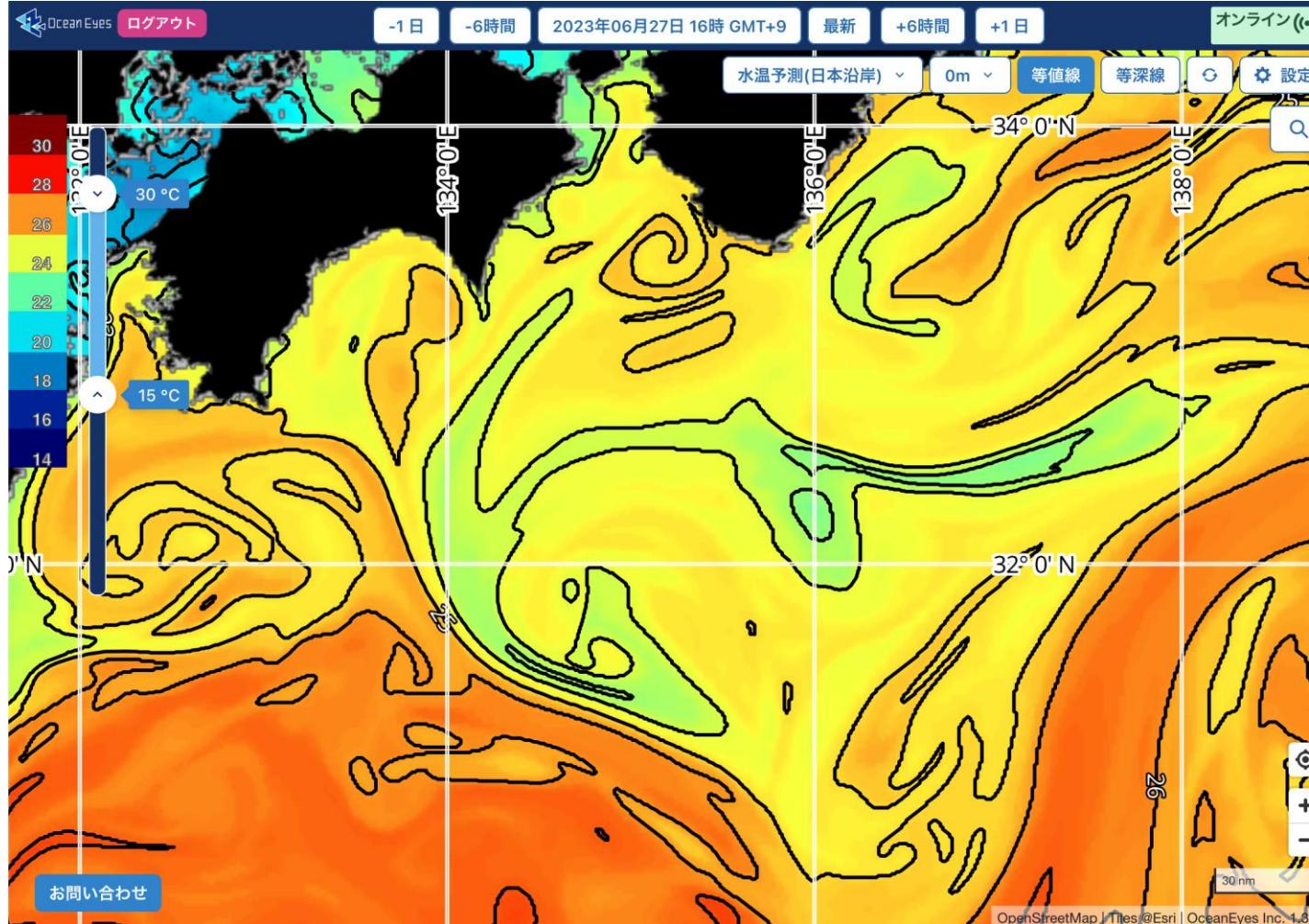
魚群の場所を推定する技術



魚群の場所を推定する: 漁場ナビ



プロダクト: 魚群がいる可能性が高い海域を提供する漁場ナビ



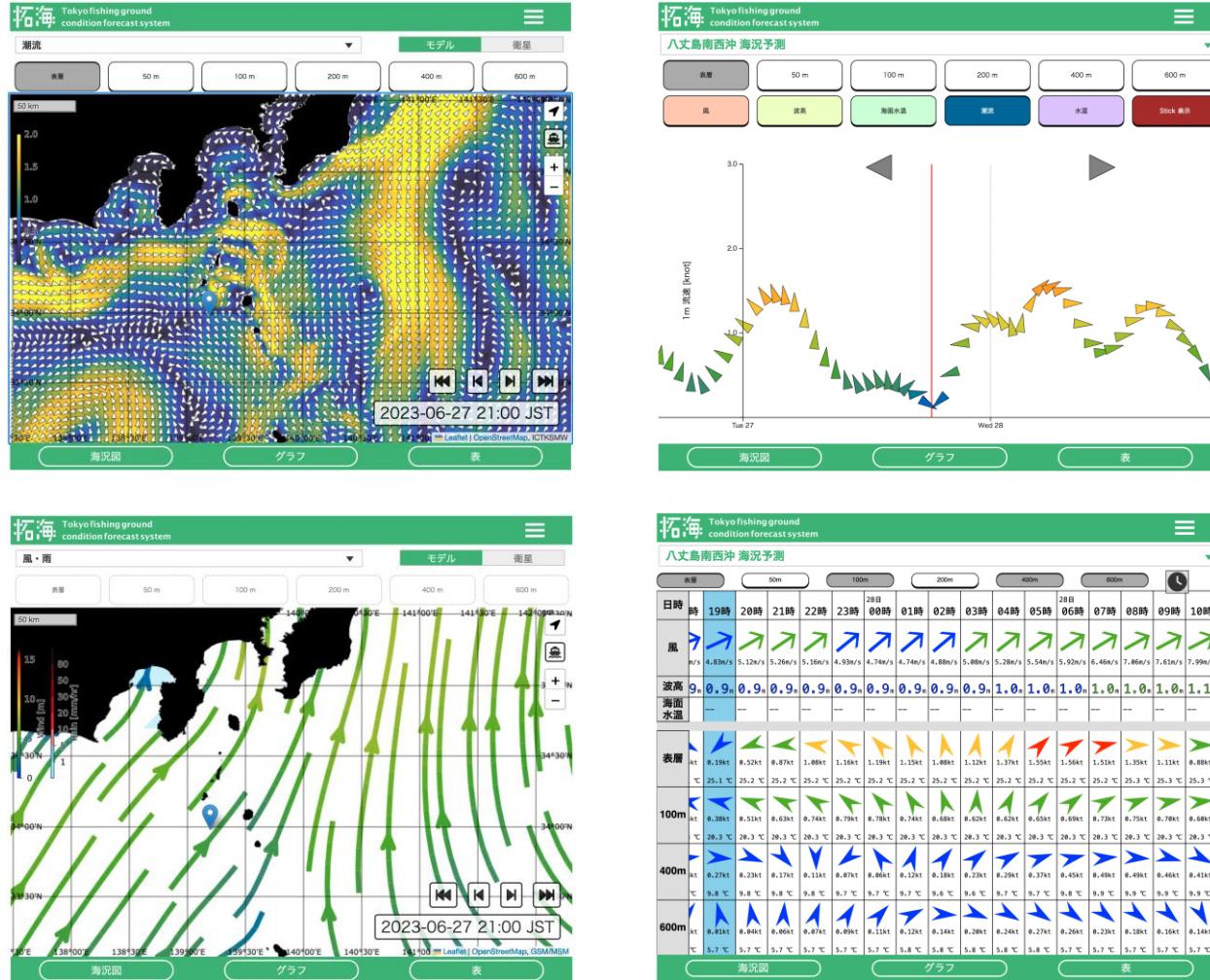
漁場の狙いを定めるのに
役立つ情報を
Webアプリで提供する

- 水温分布
- 流れの分布
- クロロフィル分布
- 海面高度分布

漁場の情報を提供するプロダクト: SEAoME



ユーザーニーズに応じた情報を提供するカスタマイズサービス



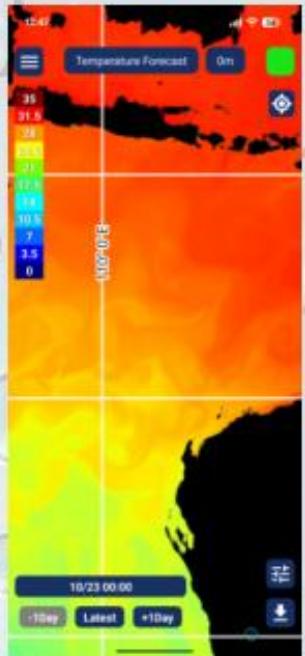
顧客の個別ニーズに応じた情報を最適な可視化で提供する

- 詳細な海洋シミュレーションモデルの構築
- 顧客データとの統合解析
- 顧客ニーズに応じた表示
- 観測データとの統合表示
- Etc...

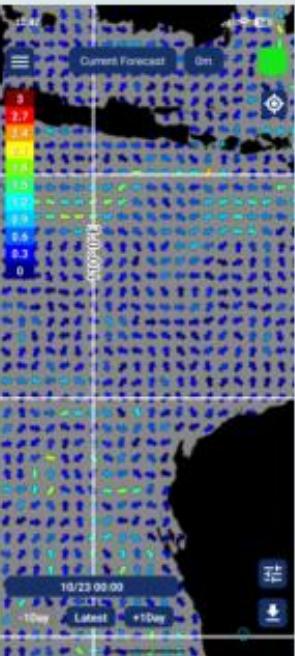
海況情報を簡単に使えるアプリ: OEView



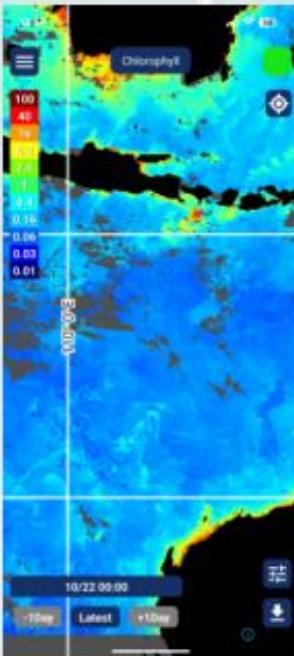
Temperature Forecast



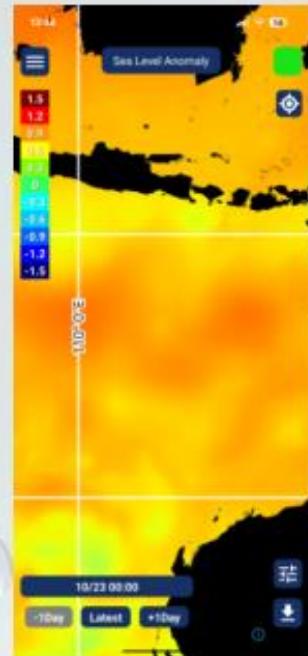
Current Forecast



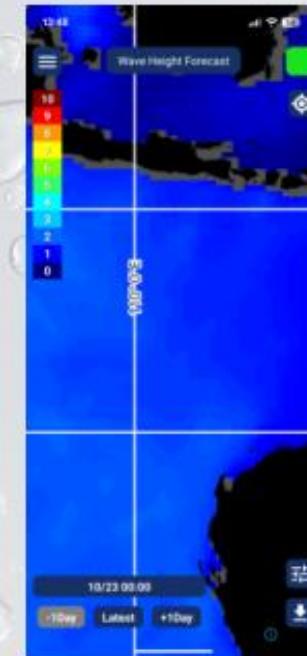
Chlorophyll



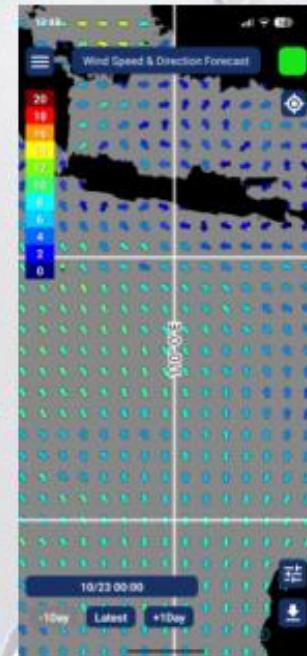
Sea Level Anomaly



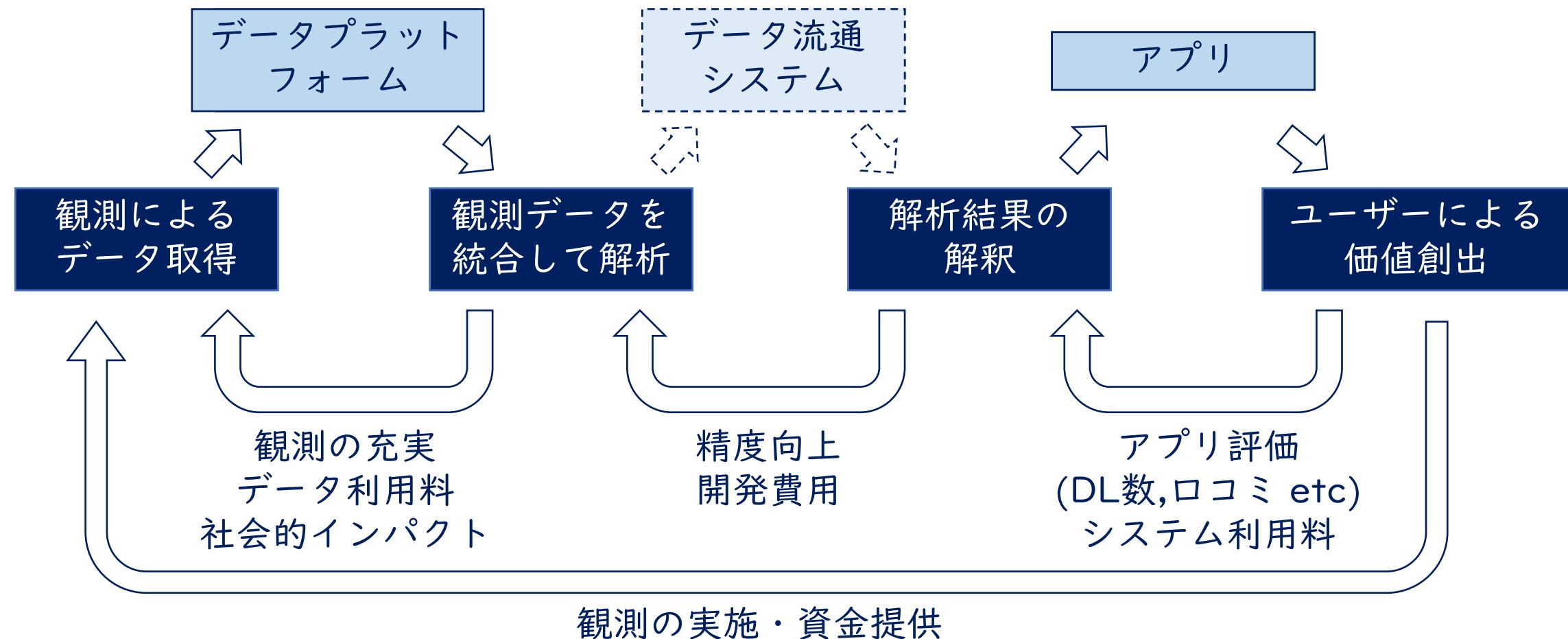
Wave Height Forecast



Wind Speed & Direction Forecast

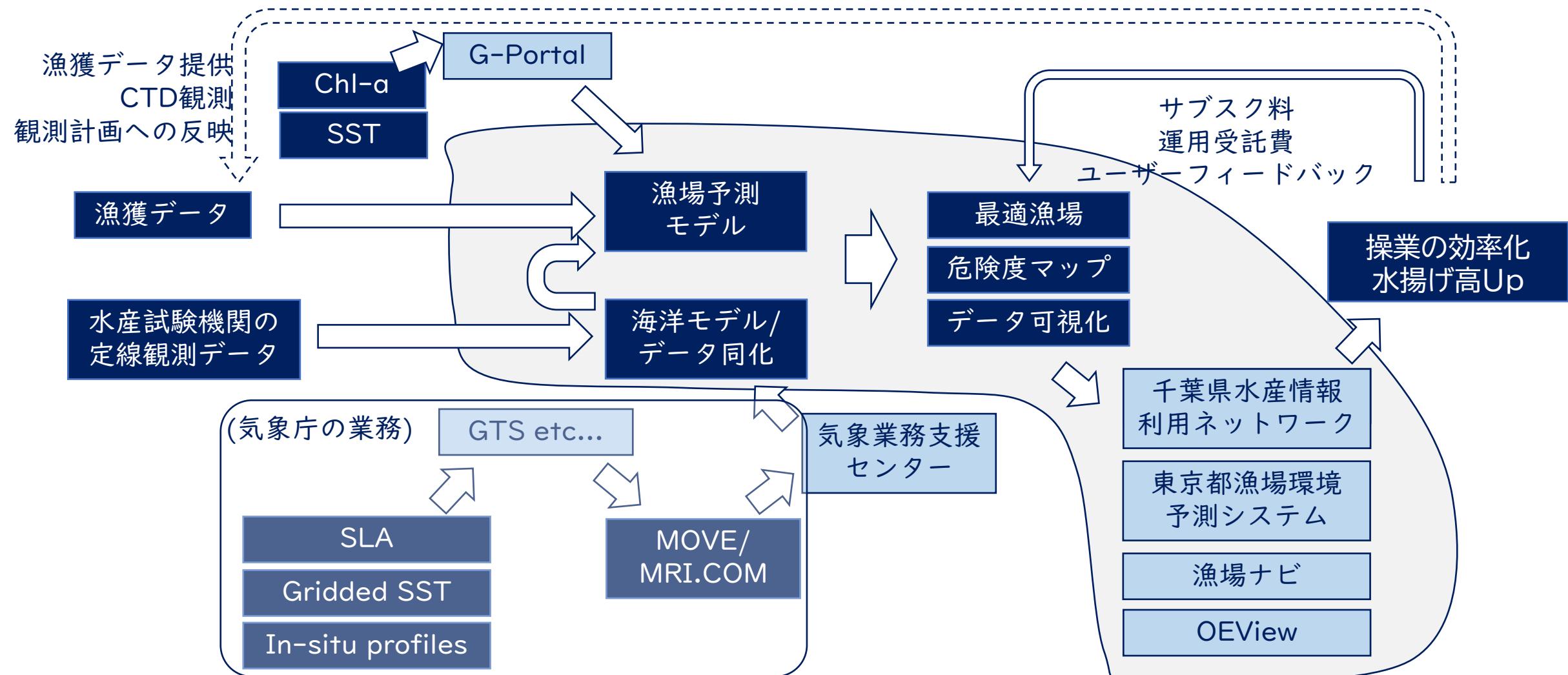


民間利用でのデータバリューチェーン



「データバリューチェーン」

オーシャンアイズのデータバリューチェーン（漁場予測）



フィードバックするための枠組みの構築が必要 (特に公的プロジェクト)

- ユーザー → サービスベンダー
 - アプリを通したフィードバック: 言語化されたフィードバックは得にくい
KPIとしてはダウンロード数, 利用頻度など
 - SEAoMEなど特定ユーザー向け: サービス運用者によるフィードバックの取得が可能
水産試験場から漁業者へのヒアリング etc
- サービスベンダー → 観測実施者
 - そもそもフィードバックする手段がない
(協業の一例) JAXA SAMRAI (超広帯域電波デジタル干渉計) 搭載衛星プロジェクト
取得データのユーザー候補としてセンサ仕様策定時から参画
どのようなフィードバックがよいか?
 - ユースケース数
 - インパクト (アウトカムを数値化=金額化したもの)
 - 研究×事業化の協業提案
 - 観測実施者 (アカデミアも多い) とベンダーをつなぐ役割を担える人材育成も必要?

日本国内の海洋に関するデータプラットフォームが圧倒的に弱い

海洋に関するデータプラットフォーム

現業の現場観測データ: JODC (海しる)

データ収集の網羅性が乏しい; リアルタイムデータが(ほぼ)ない

→ 現状は GTSPP (NOAA) に依存

地方自治体取得データの収集・アーカイブをしてほしい

→ 現状は各自治体から直接取得

衛星データ: G-Portal

(準) リアルタイムデータ配信; 自動収集対応もしていて使いやすい

研究データ

研究計画とともに使えるデータがまとまって探せるような仕組みがあってもよい?

オープンデータ化を進められる

論文の元データのリポジトリとしても使えるものがあればいいのかも?

「地球観測」とその重要性に対する認知が致命的に低い

「海洋」での経済活動そのものの (VCを含む) 一般での認知が低い

シンガポール・インドネシア・フィリピンなどのほうがよい反応が返ってくる

ヨーロッパは環境・生態系保全の観点で注目度が高い

(アメリカはビジネスという観点ではあまり注目されていない?)

国内ではUAV, 水中ドローンなどロボティクス系は比較的注目されている

海洋観測に関する課題感などはほとんど認知されていない

費用, 制約, ...

民間 (商業ベース) での利活用促進にとっては認知度向上が重要

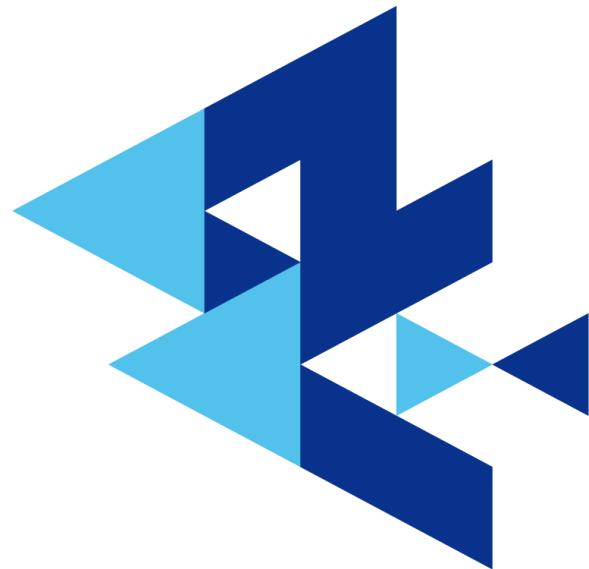
貴重な観測データをうまく活用できる技術はビジネス上の強みになりうる

取得しにくいデータを得られる/持っていること自体が市場での優位性につながる

データの価値が真っ当に評価されることはバリューチェーンの構築に重要

まとめ

- オーシャンアイズの事業を「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に記載された「データバリューチェーン」の考え方方に沿って捉えなおした。
- バリューチェーンの中での「フィードバック」方向の矢印をうまく働かせるために、サービスベンダーも含めた取り組みが重要になってくるだろうと考えられる。
- 海洋観測データに関してはデータを流通させる仕組みの拡充も必要。
- 「地球観測」そのものの重要性の認知度向上が、データ利活用の促進、ひいては市場の拡大に不可欠。



OCEAN EYES

Mail:

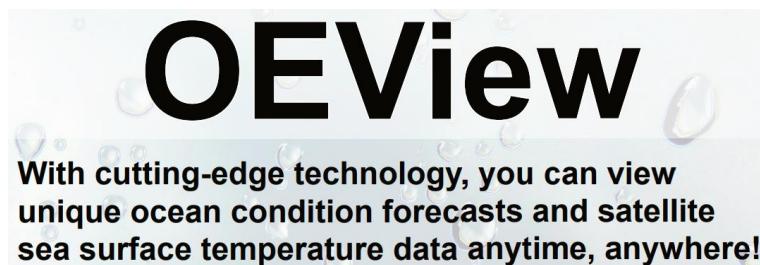
info@oceaneyes.co.jp

Web page:

<https://oceaneyes.co.jp/>

LinkedIn:

<https://www.linkedin.com/company/oceaneyes/>



OEView

With cutting-edge technology, you can view unique ocean condition forecasts and satellite sea surface temperature data anytime, anywhere!

► For iPhone users



► For Android users

